

学術情報ポータル担当者研修レポート

2007.11 福島大学

受講者番号 3-1 小椋正行 福島大学学術情報部門
受講者番号 3-2 長谷川秀輝 福島大学学術情報部門情報基盤グループ
受講者番号 3-3 矢内祐紀 福島大学学術情報部門学術情報グループ

(1) 発表資料の状況設定

教員会議の前に時間をもらい、教員会議出席の教員に説明を行う。対象者は機関リポジトリへの認識はほとんどない文系教員。大学の教育研究活動の成果である知的生産物を収集・蓄積し公開することが大学の役割のひとつであることを認識してもらい、リポジトリの説明とコンテンツの提供依頼を行う。

(2) 発表内容の抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

□抄録

リポジトリを構築し研究成果の発信に取り組む背景、リポジトリとは何か、その目的、特徴、メリットを説明する。さらに本学で取り組んでいるリポジトリの仕組みと推進体制を理解していただいた上で、教育・研究の成果としてリポジトリに登録するコンテンツの種類、登録方法、著作権許諾などの手順を説明し、教員が学術出版社へ投稿する際には、著者版最終原稿を残していただきリポジトリにも登録していただくよう依頼する。また、これまでの取り組み経過を報告し、平成 19 年度中の公開に向けて協力を依頼する。

□研修当日の助言

- ・既に図書館で科研費の報告書は電子化されているが、それとリポジトリの関係はどうなるのか。今の科研費の報告書はなくなってしまうのか。
- ・教育実践映像ということだが、そこに子どもの顔が映っているとその子どもの肖像権が生じていると思われる。また、顔が出るということに保護者の不安もある。そういうものをオンラインで公開するのは危険なのではないかと思う。
- ・福島大学の特徴として、陸上が強いというのがある。それを動画で見せられると非常に効果的だと思うが、動画は載せることができるか。

□改訂部分

内容を大幅に変更する必要はないとの判断から、内容的に重複するものや説明が長くなるものを一部外した。また、リポジトリの取り組みにあたって手続きを重要視する教員にもアピールできるよう、これまでの取り組みを付け加えた。

また、研修当日の助言から、現在公開している科研費の報告書はリポジトリに切り替

わること、教育実践映像については福島県教育センターと連携してアクセスできる者を制限すること、肖像権や保護者の心情については、今後具体的に検証していくことを口頭で補足説明することとした。

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

日 時 : 2007年11月6日(水) 17:30~18:30
場 所 : 附属図書館会議室
発表者 : 小椋正行
発表対象: 学術情報グループ員(図書館)
 情報基盤グループ員(総合情報処理センター)
参加人数: 13名(含むグループリーダー)

(4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

- ・映像資料について、アクセスに認証をかけるのはよいことだと思うが、Junii2のハーベスティングに引っかからない形なのか。映像本体についてはお問い合わせくださいという形にして、メタデータ・検索結果は公開してもよいのではないか。
- ・教員の協力を求めるには、教員にとって何がメリットなのかをもっと説明する必要がある。今教員は関心がないが、そのうち外部からリポジトリに論文が載ってないことを指摘されるようになるだろう。今はできるところからやるしかない。
- ・教員には著作権を許諾している学協会など具体的な資料として提示した方がよい。
- ・リポジトリが本稼動した際にリポジトリの入り口はHPのどこにあるのか。図書館ではなく大学トップページにしてほしい。研究者総覧とともに大学トップページにあるべきである。また、今までの取り組みについては断片的な感じを受ける。リポジトリの説明や問い合わせフォームをHPに出してほしい。
- ・先にリポジトリを構築してきた大学の例を見ると、教員からの質問で答えられなかったものがあるときは、後日研究室まで出向いて質問の回答をしている。そのぐらいはやるべき。

(5) その他（備考、今後の予定と希望）

新採の教員に対して図書館利用にかかる新任教員説明会を毎年開催し、図書の購入から利用について説明している。今回のプレゼンテーションの中身を訂正し、リポジトリについても時間を取って説明する予定である。